

# スローライフ学会だより

発行：NPOスローライフ・ジャパン（スローライフ学会事務局）2009年11月24日NO.11

〒102-0085 東京都千代田区六番町6-1 パレロワイヤル六番町310 ☎03-3221-5113 fax03-3221-5114

<http://www.slowlife-japan.jp/> E-mail:slowlifej@nifty.ne.jp

## 淡路島に行こう！スローライフ・フォーラム



四国方面からお運びを。鳴門大橋。

いよいよ12月4～6日、兵庫県淡路島で、「島を学ぶ」をテーマとした集いスローライフ・フォーラムが近づきました。美しい海と島ならではの味を楽しみながら、語り合いましょ。分科会各会場から全体会フォーラム会場まで、連絡車が出ますので安心してご参加ください。

各分科会への交通案内、新神戸駅（新幹線）三宮駅から淡路島への高速バス時刻表別紙と淡路島ガイドを同送します。

申し込み用紙は「島を学ぶ」パンフレット2ページ。

申し込みをお待ちしています。

### ◇「島を学ぶ」 3つの分科会と全体会議



サンライズ淡路

#### 【南あわじ分科会】

12月4日（金）場所／南あわじ市「サンライズ淡路」

テーマ／「空き地で交流・空き家に定住」～島には可能性がいっぱい～



仁井の棚田

#### 【淡路分科会】

12月5日（土）場所／淡路市「淡路市立仁井（にい）公民館」

テーマ／「限界集落ではない、元気集落だ！」～物差しを持ち替えよう～



エトワール生石

#### 【洲本分科会】

12月5日（土）場所／洲本市「エトワール生石（おいし）」

テーマ／「島のスローツーリズム」～海と花と食と。あらためて観光を考える～

#### 【全体会】12月6日（日）場所／兵庫県立淡路夢舞台国際会議場

地下1階イベントホール

テーマ『島に学ぶ』



さすが花の淡路島  
会場となるウエスティンホテルの花形のイス

問い合わせ スローライフ・ジャパンまで  
電話 03-3221-5113 FAX 03-3221-3114  
メール slowlifej@nifty.ne.jp

申し込み先 財団法人淡路島くこうみ協会  
電話 0799-24-2001 FAX 0799-25-2521

## ◇スローライフ月間「メッセージイベント」も

12月のスローライフ・フォーラムより先行して、淡路島では10月7日からスローライフ月間を開催中です。「スローライフとは、こんな視点」というメッセージをこめて、スローライフ学会会員と淡路島の皆さんと、こんな試みにチャレンジです。

### 11月3日 スローライフ・スポーツ

南あわじ市の農業公園イングランドの丘で。大阪の「NPO法人フレンドリー情報センター」が出向き、会場の皆さんに紹介しました。たくさんの親子連れが「トランポピクス」や「公式ワナゲ」など、スローなスポーツを楽しんでいました。



### 11月22日 映画「1000年の山古志」



阪神・淡路大震災に次ぐ被害をこうむった中越大震災。それから5年。全村水没・崩壊した山古志村が、ふるさとをよみがえらせつつある姿を



映画化しました。ともに震災から立ち上がった島と村がつながりを…。財団法人兵庫県消防協会の協力を得て、北淡震災記念公園で上映。200人の方が参加くださいました。この映画はNPOスローライフ・ジャパンもプロデューサー側として参画しています。

### 11月26・27日 スロー・スタイル・サイクリング

淡路島内を自転車で駆け抜ける一。静岡県掛川市「NPO法人スローライフ掛川」が、島内有志とともに、身近な野山をゆっくり走るスロートーリズム体験をします。この模様は12月5日、洲本分科会で報告されます。



### 11月29日 ダンボールハウスづくり

南あわじ市のショッピングセンターで。淡路島の子どもたちと静岡県掛川市の建築士集団「ラーン・ネットワーク」、地元建築士の方々が、ダンボールハウスづくりのワークショップを行います。どんな淡路らしいダンボール建築ができるのか？！



## 第4回さんか・さろん

# スピーチ I 「ITは太陽と緑を 求める」

浦 聖治さん（クオリティ株式会社 代表取締役社長）

「さんか・さろん」は、毎回浦さんの会社にある『平河町 Mercury Room』を使わせていただいています。IT 企業がスローライフに理解を示し、社会貢献の一環としてかかわってくださる。その心意気を強く感じました。

「東京でなくてもいい仕事は、白浜へ」を合言葉に和歌山県白浜にグループ会社エスアールアイを設立。白浜を選んだ理由は米シリコンバレーの、良い仕事環境を見て。現在クオリティグループは白浜のほか上海・ソウル・シアトルにも設立されている。

### ● Innovation Springs の実現へ

クオリティは、平河町本社が 200 坪に 50 名のゆとり環境にある。1984 年、ソフトウェアの翻訳からスタートし、現在は IT 資産管理の専門ソフトウェアメーカー。業務の中心は企業の IT 資産管理。ログ（アクセス記録）の管理や、危ないパソコンを排除し、企業のパソコンネットワークを管理する。また企業のデータ流出防止・コピーソフトの移入防止も担っている。

理念は、貢献と成長と豊かさであり、会社を通じて生きる喜びを噛み締めたいと考えている。使命として、情報基盤をしっかりとさせ、情報技術の活用で直接的な所で世界へ貢献をすすめてつある。

私は、最近引越しをし、徒歩通勤から 13 分程度の電車通勤となった。電車通勤をすると、経済的に健全そうな日本の 1 時間の通勤時間が、スペイン人から見たらバカな…と思われるだろう。

安価な住居と快適な通勤、自然と隣り合った生活—山海川があつて夕方釣りをするという、良かった時代から遠のいていると強く感じている。

通信技術が発達したので、地方での仕事は楽になってきている。コンピューターネットワークの利用のビデオ会議など、IT 産業で”地方の時代”を作れると考えている。イノベーションスプリングス—地方の時代が日本を豊かにする。



充実環境の白浜エスアールアイ本社

### ● Shink Global, Act Local について私は、地域貢献を通じて

世界に貢献する『地域連鎖が出来る』ととらえている。

扱うソフトは、白浜で開発し上海で国際化し世界へ。東京で販売・技術支援サポートし、白浜ではパソコン管理の品質保証テスト 2 万 3 千台のテストをしている。地方（南紀白浜）の豊かな住環境と通信技術の発達で、イノベーションスプリングス—地方の時代が可能となり、日本を豊かにする。そして地方には IT 産業メリットもある。高い従業員ロイヤリティや有力企業が少ないため地域からの応援、オフィスコスト、住居コストや、首都圏に比べて低い人件費がある。企業の取組みを地方で発信することで、その地域の発展に繋がり、また新事業の取組みによる雇用拡大による地域貢献—地域連鎖となる。

毎月第 3 火曜日に開催される『さんか・さろん』。

第 4 回 10 月 15 日・第 5 回 11 月 17 日の講師スピーチをご報告です。

第 4 回の会場での様子を事務局が撮影に失敗しました。浦さん、小池さんごめんなさい。





## 第5回さんか・さろん

# スピーチ I 「スローライフスポーツを どうぞ」

吉田 正信さん NPO フレンドリー情報センター 代表理事

吉田さんが用意されたいろいろな用具を使って「さろん」参加者が次々とスローなスポーツを体験。場がなごむスポーツであることを実感しました。

生涯スポーツと同じ考えを持ち、誰もがいつからでもいつまでも親しむことのできるスポーツで、私たちにとって新しいスポーツを「ニュースポーツ」「スローライフスポーツ」として説明している。難しい健康づくりの話ではなく、楽しくて良いのでは一と、15年ほど前から提案している。この「スポーツ」は、1番を目指す競技スポーツと異なり、勝敗はあるが他人と競うのではなく、自分が楽しむ状況を作っていくスポーツ。これらニュースポーツは70種類以上あり、様々な国で生まれ広がっている。

### ●日本人に無い概念スポーツ

「キンボール」(右写真)というスポーツは、直径122センチの大型球を4人1チーム構成。3チームで競うスポーツ。カナダケベック州から起きた。ボールを打つときに「オムニキン」(オムニ=すべての、キン=運動感覚の意味。「すべての人が楽しめるスポーツ」という造語)と掛け声をかける。ボールを落したら負け。このスポーツの魅力は3チームで競うこと。得点が高いチームに対して低い2チームが協力すること。得点が僅差となり、誰もが楽しめる”共遊スポーツ”といえる。対1チームで競うことに慣れている日本人にとっては、相手チームが複数であるスポーツは新しい概念のスポーツだ。



### ●スローライフスポーツは、自分で遊びを考えられる

「ガラッキー」は、25センチ程度のボーリングのピンに似た形状のビニール製で、空気の適度な柔らかさと重りが入っている。これを目標物に目掛けて投げる。起き上がりこぼしのように揺れ倒れない構造になっている。車椅子でも手軽に遊べるもの。

「公式ワナゲ」は、正方形9本に並べられた棒を目掛けて、2メートル離れて輪を投げる。輪は9つ棒ごとに決められた点数があり、輪が入った棒の点数を合計して競う。



これらの「ニュースポーツ」は、自分が楽しむ状況を作っていくことが出来る。ルールも自分流にアレンジしたり、参加者にあわせてアレンジする楽しみもある。

昼休みなど、ちょっとした時間の利用で楽しめるスポーツなのが魅力だろう。スポーツが人を選ぶのではなく、人がスポーツを選んだり作ったりすることが大切なこと。

いまやワールドゲームズなど、国を代表しない世界大会も開催され、輪が広がっていくスポーツといえる。



## 第5回さんか・さろん

# スピーチⅡ 「町内会体験ー 巨大ビルとの戦い」

齊藤 睦さん 地域総合研究所所長

「最近、私、町内会活動をしていますの」とおっしゃる齊藤さん。全国的に活躍する地域プランナーがそこに見るものは？時間をおいてその後のお話もぜひうかがいたいものです。

東京都中央線中野駅前「桃園町内会」。ここは駅近くの住宅地である。駅周辺の大区画が空いたため、急に再開発が始まった。北側は壁のような大学が建つ予定でした。地域住民が裁判に訴えた。桃園町内会のある南側でも、今年4月、大手ゼネコンが土地を買い取り商業地と中低層住宅地に超高層マンションが建つことになった。自分も町内会活動『まちづくりプロジェクトチーム』へ参加した。夏に急遽「まちづくり提案書」を作成した。

### ●合法で不当との戦い

土地利用に合法で不当なことがある。建設されるマンションは、商業地域に建設されるため、中低層住宅地の建ぺい率・容積率以上の建ぺい率 80%容積率 600%商業地域率で建設される。さらに駐車場は、工作物（建ぺい率に含まない）にすることによって、建ぺい率以上の駐車場が造れるのだ。

昭和47年、町内会では、前所有者との間に土地利用の覚書があった。これは児童の交通事故を機に狭い裏通りの一方通行や安全・景観配慮をするもの。前所有者は土地転売先に覚書を引継ぎせずに転売した。

町内会からの主な要望は、(1) 安全や景観の見地から建物の高さを見直し、(2) 駐車場出入口を桃園通り（裏通り）ではなく中野通り（表の大通り）に、(3) 駐車場を地下に入れ緑化スペースの確保、(4) 風環境情報を開示し対応策の提示、の4つ。町内会は事業主との話し合いや要望書の提出など、さまざまなアクションをおこなっている。

都市計画法の緩和による国・自治体の開発志向が、合法で不当な建築に影響している。斜面地の大規模マンションの規制緩和ー地下建物を容積率に加えない事など、再開発住居が都内では増え続けている。

### ●新しい都市像の形成に向けて

私たち住民は、どんなアクションを起こすべきか。そこが重要だ。また行政・事業者・専門家・住民それぞれに問題がある。

行政は一建築確認は民間にあり指導力を発揮できず、都市ビジョンがない。そして首長の意向が絶対なのだ。

事業者は一利益を最大限に追求し、社会的責任と相反していく。生活観、生活感覚がない計画となった。

専門家は一発言力が弱く、単体建築には強いが「まち」ビジョンが薄い。そして調査結果などを、権力者とか依頼者に都合の良い方向に導き出す学識者がはびこる。

住民は一お上に反対したくない、“どうせ・・・”意識が強く、長いものにはまかれないと言う。町内会にも改革が必要だ。

必要な都市計画が機能しないのはなぜか。行政・事業者・専門家・住民ともに、“魅力的な生活”と埋め込まれた意識が原因ではないだろうか。“駅近く・商業地・ツインタワー住宅”は、本当に魅力的な生活なのだろうか。それぞれの意識が変わらなければならない。





## 第4回さんか・さろん

# スピーチⅡ 「近代化遺産の魅力」

小池 利佳さん 赤煉瓦ネットワーク事務局

スローライフとは逆方向といえなくもない「重厚・長大」が大好きになってしまった。「何でそんなものが好き？」と問われても、「カレーライスがなぜ好きか答えられないのと同じ」と語る小池さん。たくさんの写真でその魅力を紹介されました。

近代化遺産とは、幕末から第二次世界大戦期までの間に建設され、日本の近代化に貢献した産業・交通・土木に係る建造物。今日の便利な生活の礎となった施設や機械が「近代化遺産」である。

近代化遺産の背景は産業考古学、英国の一部の愛好家から発祥した。1950年代に学問として成立。英国の“オタク的”な趣味が学問へ昇華させた。

### ●世の中に浸透したのは

学術的な背景として、経済史、技術史、製糸業や企業史の研究、産業技術(動力、製鉄、機械等)の研究、労働争議や公害、強制四人労働などの社会問題も関連している。建築と土木工学、材料、工法、意匠、時代時代の流行などの研究や、大型構造物(世界一を目指す)の建設挑戦もそのひとつ。

世の中に浸透した要因は、文化的背景が大きい。廃坑、鉱山、土木構造物や、その他多くの廃墟写真家の作品など、今ある施設から廃墟まで幅広い被写体が、多くの人を知る切っ掛けとなった。映像・演劇分野では、産業・近代化遺産が舞台であったり、廃墟で荒っぽい物語が展開されている。演劇・文学作品の舞台となる雰囲気は近代化遺産にはある。

### ●”無駄”が魅力

『圧倒される大きさ』—ヒューマンスケールを超える、生活を踏み越えた大きさ。

『荒々しい質感』—日常生活に無い質感、古くなる事やレンガやコンクリート群や閉鎖された空間が独特の質感に。

『愛嬌のある姿かたち』—機能に必要な無いデザインや付属物、語呂合わせ的なシンボルマークや、その土地の特産物の“装飾”。

『印象深い物語』—物語(人とのかわり)が惹きつける建物。誰が何をしたかが偉人伝にロマンを感じる方も多い。

今見ると近代化遺産だが、当時は最新技術や大規模技術によって産業改革が起こり発展したもの。



近代化遺産の最大の魅力は、今日の構造物には見られない無駄があることなのでは。

施設本来の機能に不要な装飾を施していたり。現在はそれらを広大な敷地全体を採算性の低い文化施設や、まだ使えた工場施設でも公園に整備していたりする。これらも魅力につながっているだろう。近代から現代への途上で、便利さ追求の陰にあった無駄を味わえることが、近代化遺産の存在意義かもしれない。



## 「第2回 筑紫哲也を継ぐ会」を開催



11月7日、筑紫哲也さん（初代スローライフ学会会長）の一周忌に、遺志を継ぐ会を開きました。彼の写真の前に「筑紫哲也賞作文コンクール」への応募作品を積み上げ“こんなに集まりましたよ”と報告。

学会会員作の朝日新聞で作ったエコバックに作品を入れて飾りました。

三々五々集まった方が、筑紫さんの思い出やスローライフ運動について語りました。

手作りの漬物や差し入れがテーブルに並べられ、終始穏やかでゆったりとした会となりました。



岩手県遠野市 本田敏秋市長のご挨拶



「継ぐ会」に届いた手づくり漬物、ご馳走様でした。

## 筑紫哲也賞 347 作品が集まりました。



「筑紫哲也賞“スローライフの眼”作文コンクール」（共催・2009鳥取・因幡の祭典実行委員会、協力・鳥取県 鳥取市）に、おかげさまで全国・海外から、347作品が集まりました。ありがとうございました。現在、全作品の予備審査が始まりました。3人がつ5版に編成した予備審査員が読み始めています。続いて12月からは本審査に。結果発表は来年1月末。楽しみにお待ちしております。

# 「さんか・さろん」次回は 12月15日(火)です。



スピーカーこのかたです。

○川島 英樹さん(財団法人 せたがや文化財団)「ワークショップ体験」世田谷パブリックシアターが開館する何年も前から「演劇ワークショップ」の活動をしてきた方。“創作活動・創造活動が地域でコミュニティを形成していくうえで効果がある”という、その実践のプチ体験を楽しくさせてもらえそうです。

## その後「さんか・さろん忘年会」です。

いつものようにスピーチを聞いた後、場所を移動して忘年会です。

日時 12月15日(火) 20時30分～

会場 ルポール麴町会館 地下1階「こみち」

会費 3,000円まで

お申し込みは、メール・お電話、ホームページにある申込用紙でどうぞ。

## 1月19日(火)の「さんか・さろん」は増田会長のスピーチです。

スピーカーは、増田寛也さん(スローライフ学会会長 野村総合研究所顧問)です。

どうぞ今からご予約ください。

### **\*\*会費とメールをよろしくお願いします。\*\***

年会費(4月～3月)5000円をよろしくお願いします。銀行振り込み、郵便局(ゆうちょ銀行)どちらでも結構です。「払ったかどうか???’という方は、事務局 までご一報ください。また、事務局にまだメールアドレスをご連絡でない方、一度メールを送りください。なるべくメールで連絡させていただきたく思います。

#### 《銀行振込》

銀行名 三井住友銀行麴町支店 番号 普通預金 8811176 口座名 スローライフ学会

《郵便振込》 番号 00190-4-595293 加入者名 スローライフ学会

《問合せ》 スローライフ学会・NPOスローライフ・ジャパン

Tel 03-3221-5113 (Fax 5114)

メール [slowlifej@nifty.ne.jp](mailto:slowlifej@nifty.ne.jp) ホームページ <http://www.slowlife-japan.jp/>